

元 JET 参加者東北被災地招待プログラム
報告書

平成 24 年 1 月

外務省広報文化交流部人物交流室

目次

はじめに	1
1. プログラムの趣旨・目的	3
2. プログラムの概要	3
3. プログラム参加者	5
4. プログラム参加者受け入れ先(元勤務地)	6
5. 各参加者の訪問先	7
(1) 岩手県	7
(2) 宮城県	8
(3) 福島県	9
6. 各参加者による発信	10
7. 発信形態, 件数及び発信に対する反応, コメント	13
8. 参加者の感想(我が方在外公館に伝えられた声)	16
9. 受け入れ各自治体からのコメント	18
おわりに	21
関係資料等	
本件プログラム参加者のフェイスブック等リンク先	23

はじめに

○JET プログラム

JET プログラムとは正式には「語学指導等を行う外国青年招致事業（英文：The Japan Exchange and Teaching Programme）」であり、各地方公共団体が外国青年を職員として任用し、同青年の活動を通じて、外国語教育の向上、地域の国際化、諸外国との交流・相互理解の増進、知日家・親日家の育成等の多面的な効果が期待できる極めてユニークなプログラムである。

同プログラムは開始から平成 23 年で 25 周年を迎え、これまで 60 か国から累計 5 万 5 千人を超える青年がこのプログラムにより来日し、日本全国の小・中・高校等で外国語やスポーツなどを教え、また、地方自治体における国際交流活動に携わっており、今や世界最大規模の人的交流プログラムと言われるほど成果をあげている。

○元 JET 参加者のネットワーク

JET プログラムに参加した多くの外国青年達は、日本全国各地の学校や行政組織の中で、地域や住民に密着した活動を通じて日本を経験し、帰国後、公務員、外交官、教師、民間企業、ジャーナリストなど様々な職業に就いた後も、個人のレベルで知日家・親日家として日本と母国の間で友好関係促進の橋渡し役を担っている。

平成元年以降、各国の元 JET 参加者が自発的に日本との友好関係促進を目的とする草の根レベルの活動を行う組織（JETAA:JET Alumni Association）を作っており、JETAA は現在 14 カ国に 51 支部、会員総数約 2 万 3,000 人を擁する大規模な親日家・知日家の国際的なネットワークを形成している。

外務省は、各地の在外公館を通じ、JETAA 各支部と緊密な関係を築き、JETAA が企画・実施する日本紹介事業、教育広報、日本語普及事業等への支援を行っている。また、JETAA 側も在外公館が実施する JET 参加者の募集・選考・オリエンテーション等へ積極的に協力している。

○元 JET 参加者の日本復興支援

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災後、各国の元 JET 参加者は日本が受けた被害を深く憂い、悲しみ、個人で被災地にボランティア

アとして入った者も多い。

また、世界各地の JETAA は義援金募金活動、チャリティー事業等を活発に行い、例えば米国 JETAA が集めた支援金総額は 31 万 3000 米ドルに上る。また、10 月には JETAA の世界組織である JETAA 国際委員会が「日本の復興への貢献」と「JET プログラムの改善」をテーマとして日本で開催され、同委員会参加者は東京での会議後、陸前高田市でのボランティア活動を実施している。

○元 JET 参加者による風評被害対策等

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の後、海外において日本は危険なところであるとの風評が広がり、被災地自治体を始めとして外国人の訪問者が激減した。外務省では、こうした風評被害を防止するため、様々な対応策をとっている。風評被害対策には様々な方法があるが、中でも外国人による草の根レベルの発信は高い効果が見込まれる。

元 JET 参加者は、日本に対する深い理解と強い親近感を持っていること、日本語能力を含め被災地の方々に負担をかけることなく独立して活動できること、かつての勤務地の震災前と震災後を客観的に比較できること、ソーシャル・メディアによる発信力が高いこと等の点で、復興途上の被災地に入ってその状況を対外発信するのに極めて適したグループである。本件プログラムは、観光庁の実施する東日本大震災により訪日旅行需要に生じた悪影響を早急に克服するために緊急に実施する海外向け情報発信及び現地旅行会社等訪日旅行販売側面支援の展開に係る業務として、元 JET 参加者を日本に短期間招待し実施したものである。

1. プログラムの趣旨・目的

本件プログラムは、東日本大震災で被災した自治体に勤務経験のある元 JET 参加者を訪日招待し、元の勤務地の訪問、かつての同僚・教え子等との交流、近隣の観光地や東京等の視察を行い、震災から復興しつつある日本の状況及び訪日旅行・日本滞在の安全性を実感してもらい、日本滞在中の見聞・印象等を出身地の新聞への投稿、テレビ及びラジオへの出演、講演、ホームページ、ツイッター、ブログ、You Tube といった様々な形で発信させることにより、海外における被災地及び日本のイメージを改善しようとする風評被害対策を主たる目的としたものである。

また、現役の JET 参加者の多くは震災後も日本にとどまり仕事を続けているが、中には中途退職して母国に帰国した者もあり、平成 23 年 8 月来日予定の新規採用予定者が日本は危険であると思い込んでいる家族等を説得しきれず辞退する例も発生した。本件プログラムはこうした事態を改善し、将来にわたり JET プログラムへの応募者を確保する観点からも効果的だと考えられる。

更には、被災地等の自治体関係者及び地域住民に、元 JET 参加者の日本を思う気持ちを伝え、25 年継続している国際交流としての JET プログラムの意義を再認識してもらうこと及び本件プログラム参加者自身の日本に対する親近感を高めること等にも資するものである。

2. プログラムの概要

(1) 参加条件、人数、実施期間等

以下の条件を満たす元 JET 参加者 20 名を平成 23 年 8 月 1 日から 10 月 16 日までの間に参加者の要望にあわせて各々 1 週間程度東日本大震災で被災した自治体、近隣の観光地等に招待。

(参加条件)

ア 年齢性別不問

イ 被災地である岩手県、宮城県、福島県及び仙台市の自治体に外国語指導助手 (ALT:Assistant Language Teacher)、国際交流員 (CIR:Coordinator for International Relations) またはスポーツ国際交流員 (SEA:Sports Exchange Adviser) として 2 年以上勤務経験があり、観光庁が実施しているビジット・ジャパン事業対象国出身の JET 経験者であること。

- ウ 自ら元配置されていた学校及び自治体と直接連絡を取り、活動できること。
- エ 元の勤務先の受け入れ（滞在中の交流活動の実施）が可能であること。
- オ 日本への入国から出国までエスコートなしで行動できること。
- カ 日本滞在の経験及び外国人旅行者の視点から見た印象等をマスコミへの投稿、ブログ、ホームページ、フェイスブック等により発信すること。
- キ 滞在中、内外メディアの取材がアレンジされる場合、これに応じること。
- ク 受け入れ確認を自治体に依頼するにあたり、復旧等で多忙を極めている自治体に極力迷惑をかけないようにすること。
- ケ 自治体から得る協力は、元の勤務先への訪問及び関係者からの説明程度であり、それ以上のアレンジを要求せず、参加者自らがアレンジすること。
- コ 宿舎及び移動手段を自治体に要求しないこと。
- サ 訪問日程作成にあたっては受け入れ自治体とよく相談すること。

（２）基本的滞在日程

入国時または出国時に東京に一泊して視察し、旧勤務地に3～4泊し元同僚や教え子等と交流する他、被災地の復興状況を視察、近隣の観光地に一泊する。

（３）選考方法

上記（１）イの条件を満たす元JET参加者のいる11か国の大使館、26の総領事館及び駐在官事務所において、JETAAを通じて参加条件を満たす参加希望者を募集し、各在外公館が優先順位を付して推薦。同推薦をもとに外務省において、出身国のバランス、訪問先自治体のバランス、受け入れ自治体からの要望の有無、在外公館の推薦順位、候補者の発信能力等を総合的に勘案し、観光庁とも協議して、応募者61名の中から20名を採用した。

3. プログラム参加者(以下,参加者の記載については①-⑳の氏名番号を使用)

氏名	職業	性別	出身国・推薦公館	受入れ団体	日本勤務時期
① Blodgett Michael	英語教師	男	米国(ホートランド)	宮城県大崎市	2005/7-2007/7
② Gravender Kristofer	中学校講師	男	米国(シカゴ)	福島県会津若松市	2002/8-2006/8
③ Julian Robert	大学院生	男	米国(ワシントン)	宮城県大郷町	2008/8-2010/8
④ Cameron Amy	ESL教師	女	米国(ボストン)	福島県二本松市	1998/7-2000/7
⑤ Shiomi Audrey	フリーランスライター	女	米国(ロサンゼルス)	仙台市	1999/7-2001/7
⑥ Foley James	フリーランスライター	男	米国(サンフランシスコ)	福島県いわき市	2007/7-2010/7
⑦ Erickson Benjamin	教育事業ディレクター	男	米国(シアトル)	岩手県二戸市	2006/8-2008/8
⑧ Mockridge Alan	会社役員	男	米国(サンフランシスコ)	岩手県大槌高校	1992/7-1997/7
⑨ Pang Jacquelyn	ウォルテイス・ニードル勤務	女	米国(ニューヨーク)	宮城県登米市	2003/7-2007/7
⑩ Cooney William	高校教師	男	オーストラリア(ブリスベン)	宮城県名取市	2005/7-2008/7
⑪ Van Etten Sharon	銀行員	女	オーストラリア(シドニー)	岩手県	2001/7-2004/7
⑫ Blester Heidi	顧客マネージャー	女	オーストラリア(メルボルン)	福島県いわき市	2003/8-2008/7
⑬ Wood Lynette	外交貿易省次官補	女	オーストラリア(キャンベラ)	宮城県	1989/7-1992/7
⑭ Sterling Brent	ライター	男	カナダ(オタワ)	福島県安達高校	2006/7-2010/7
⑮ Gardecky Tanya	高校教師	女	カナダ(トロント)	宮城県塩竈市	2009/8-2010/8
⑯ Hardy James	ジャーナリスト	男	英国	福島県国見町	2001/7-2003/7
⑰ 呉 光玉	会社員	女	中国	岩手県	2008/4-2010/4
⑱ 宋 彦婷	会社員	女	中国	岩手県	2005/4-2007/4
⑲ 李 衛群	大学教師	女	中国	岩手県	2003/4-2005/4
⑳ ト 曉燕	銀行員	女	中国	岩手県	2001/4-2003/4

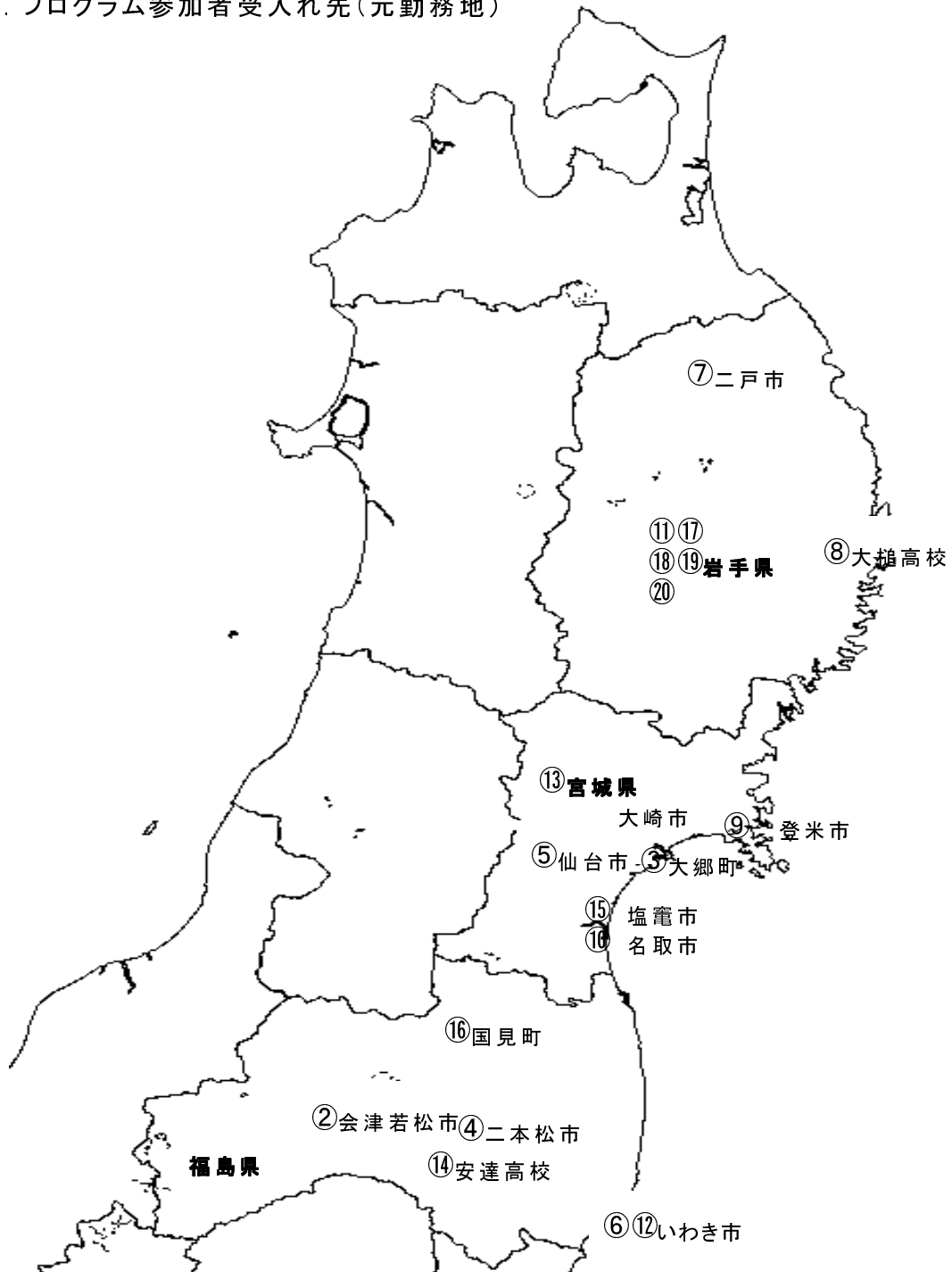
(1) 出身国別人数

米国9名,オーストラリア4名,中国4名,カナダ2名,英国1名

(2) 訪問先別人数

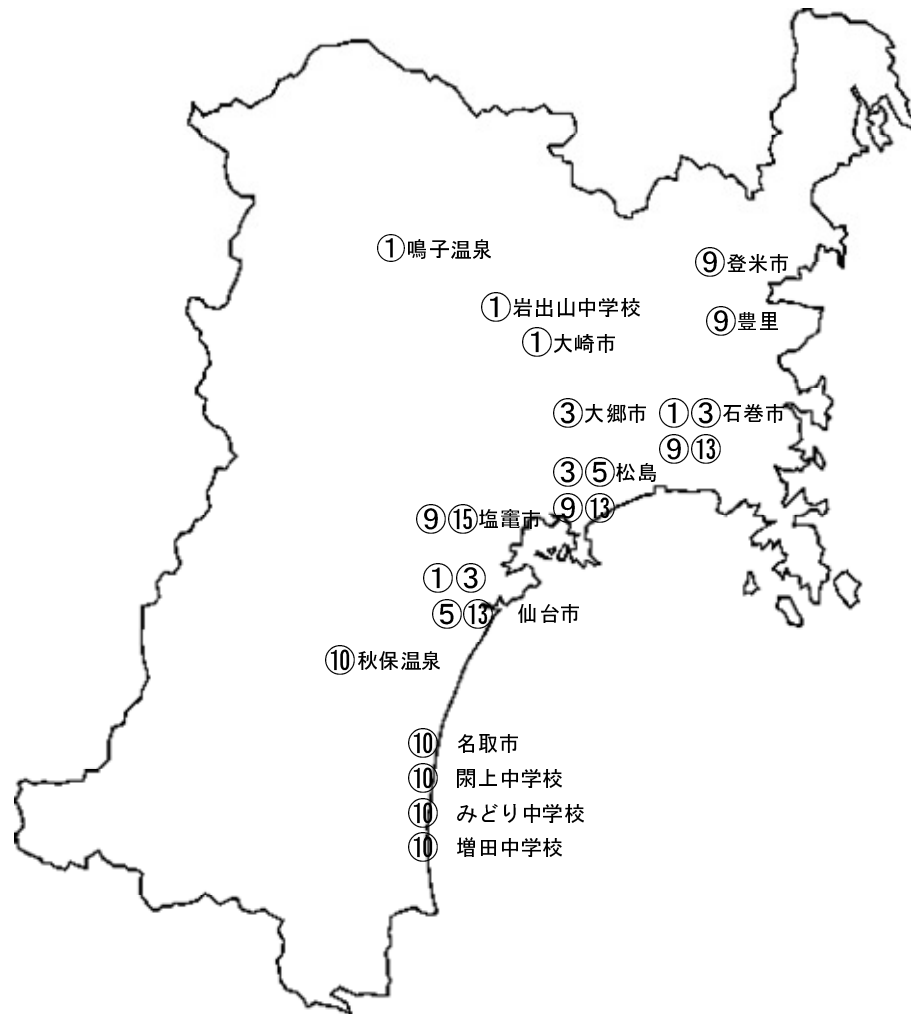
岩手県7名,宮城県6名,福島県6名,仙台市1名

4. プログラム参加者受入れ先(元勤務地)



(注)丸数字の訪問先と氏名番号が付合

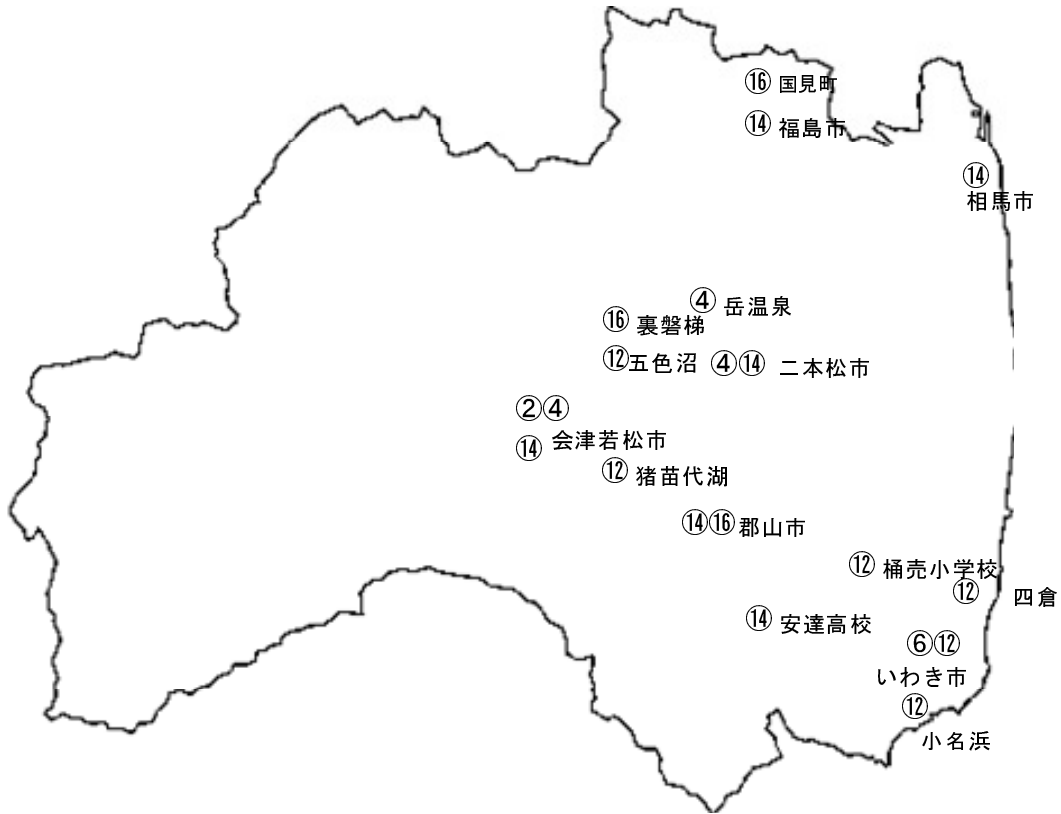
宮城県



(注) 丸数字の訪問先と氏名が付合

氏名	訪問期間	訪問先				
①Blodgett Michael	8月4日から10日	大崎市	鳴子温泉	岩出山中学校	仙台市	石巻市
③Julian Robert	8月15日から21日	大郷町	石巻市	松島	仙台市	
⑤Shiomi Audrey	9月21日から28日	仙台市	松島			
⑨Pang Jacquelyn	9月21日から28日	登米市	豊里	石巻市	松島	塩竈市
⑩Cooney William	8月22日から29日	名取市	秋保温泉	閑上中学校	みどり中学校	増田中学校
⑬Wood Lynette	10月11日から16日	仙台市	石巻市			
⑮Gardecky Tanya	8月22日から28日	塩竈市	松島	石巻市		

福島県



(注) 丸数字の訪問先と氏名が付合

氏名	訪問期間	訪問先						
②Gravender Kristofer	8月7日から14日	会津若松市						
④Cameron Amy	8月28日から9月4日	会津若松市	二本松市	岳温泉				
⑥Foly James	9月13日から19日	いわき市						
⑫Blester Heidi	9月19日から26日	いわき市	小名浜	四倉	五色沼	猪苗代湖	桶売小学校	
⑭Sterling Brent	9月22日から29日	安達高校	郡山市	会津若松市	二本松市	福島市	相馬市	
⑯Hardy James	8月1日から8日	国見市	郡山市	裏磐梯				

6. 参加者による発信

- ①（ポートランド：英語教師）You Tubeに「東北再訪―復興への道」と題する映像を掲載し、宮城県石巻市の寿司店が再開したこと、岩手山中学校の生徒との交流の様態を発信した他、ホームページに東北の写真76枚を掲載。東北の人々は被害を克服しつつあり、東北旅行をお勧めすると発信。
- ②（シカゴ：中学校教師）フェイスブック及びYou Tubeに福島県会津若松市の記事、写真、映像を多数掲載。You Tubeにて会津若松は安全であり訪問することを呼びかけ。10月21日付け現地日系紙に、会津若松を訪問した印象を寄稿した他、同市の見聞記をフェイスブックに掲載。
- ③（ワシントン DC：大学院生）日本三景の一つでもある宮城県松島の現状等を中心に、46枚の写真及び記事をブログに掲載し、震災後も松島の町は安全で、観光客も徐々に戻って来ており、復興が着実に進んでいることなどを紹介。バージニア州ハンプデンシドニー大学及びリッチモンド大学で講演。
- ④（ボストン：ESL教師）福島県の被災地の復興状況について講演会を複数の高等学校及び短大で開催した他、ブログ及びホームページに訪日印象記を掲載。さらに、チャリティー・イベントを開催。
- ⑤（ロサンゼルス：フリーランスライター）ブログ、フェイスブック及び現地新聞電子版にて、宮城県仙台市の被災地の復興状況や日常生活が通常に戻っていることを実感し、渡航前の不安を払拭した旨を発信。UCLA修士課程の場で体験を話すとともに、広島県人会青年部にてプレゼンテーションを実施。
- ⑥（サンフランシスコ：フリーランスライター）ブログにて訪日して見聞した岩手県釜石港、大槌町、宮古市及び陸前高田市の被災状況、魚市場、交流した人々の声や現状を124ページにわたり写真とともに発信。
- ⑦（シアトル：教育事業ディレクター）ホームページ、ツイッター及びフェイスブックを通じて岩手県二戸市の状況を発信した他、元JET参加者東北被災地招待プログラムのホームページを作成。「北米報知」に関係記事を掲載、総領事館主催「日本語シンポジウム」にて東北地方の現状についてプレゼンテーションを実施。
- ⑧（サンフランシスコ：会社役員）岩手県での体験や感想及びJETプログラム等を現地テレビで放映したほか、ホームページに掲載。
- ⑨（ニューヨーク：ウォルトディズニー勤務）訪問した宮城県下の松島

町, 塩竈市, 豊里町及び気仙沼市の写真及び訪問した市町の印象記をウェブサイトを通じて掲載。

- ⑩ (ブリスベン: 高校教師) 宮城県名取市を訪問し見聞したことをフェイスブックで発信した他, 帰国後勤務先の学校を中心に, 日本語を履修する生徒 450 名及び教職員 150 名に対し, 今次訪日で得られた日本国内の状況及び印象を説明。生徒父兄の関係者約 2,000 名に配布される学校ニュースレターにおいても今次訪日を紹介。クイーンズランド州現代教師会の日本語教師約 30 名に今次訪日についてブリーフ。来年予定の日本への修学旅行者にまだまだ若干の懸念を有する教師に対し安心感をもってもらうべく, 日本に関する情報を提供し, 質疑に応じた。

- ⑪ (シドニー: 銀行員) 総領事公邸にてマスコミ, 州議会議員, 州政府関係者を集め岩手県を訪問した帰国報告会を開催し, ブログに地震及び津波被害の様子, 復興に向けて力強く歩む人々の様子をデータや写真とともに紹介。また, 東北は素晴らしい所であり, 安全であるので, 是非訪問するよう呼びかけ。

- ⑫ (メルボルン: 顧客マネージャー) 訪日前, 現地コミュニティー日系新聞に, 「がんばっぺ! いわき」と題し, 元 JET 参加者東北被災地招待プログラムで福島県いわき市を訪問し, いわき市災害対策本部に義援金を送付したインタビュー記事を掲載。

福島県いわき市を訪問後, タスマニア ABC ラジオ局で, 日本人の復興に立ち向かう姿, 忍耐強さについて語り, 是非とも日本を訪問し日本を見てほしいと 30 分間にわたり訴えた。また, いわき市を訪問した 1 週間に見聞したことを 20 ページにわたり日記風に 30 枚の写真を使用してホームページに掲載した他, 財団法人いわき国際交流協会会報紙「ワールド・アイ」10 月号, JET T A A のホームページ, 在メルボルン総領事館ホームページにも掲載。

- ⑬ (オーストラリア: 外交貿易省次官補) インターネット上の「TripAdvisor」に仙台, 松島, 東京のホテル, 観光地に関して WoodyCanberra 名で肯定的な寄稿を実施。10 月 23 日付ジャパン・タイムズ紙インターネット版に「Opportunity for Tohoku」を投稿し, 20 年ぶりに宮城県を再訪した際に災害の規模に圧倒されると同時に, 地元住民の粘り強く前向きな態度に印象を受けたとし, 今回の震災で国際社会の注目を集めこともバネとして被災地が力強く復興していつ

て欲しいとの希望を表明。

- ⑭（カナダ：ライター）訪日前、現地紙オタワ・シチズン紙に元 JET 参加者東北被災地招待プログラムに参加することを掲載した他、現地 CBC ラジオに出演し、被災地で多くの人が力を合わせて復興に向けて取り組んでいることを紹介。

福島県を訪問後、現地日系テレビ、国営ラジオ、現地紙オタワ・シチズンのインタビューを受けたほか、ブログに相馬市の被災状況の写真を掲載し、現状をレポート。

- ⑮（トロント：高校教師）宮城県塩竈市を訪問し、帰国後、現地テレビ、新聞及びラジオ関係者を招いて報告会を開催し、同発表会が広く報道された他、ブログで自分自身の訪日経験を始め、滞在中マスコミインタビューを受けたこと、塩竈訪問経験等を日記風に発信。
- ⑯（英国：ジャーナリスト）フェイスブックに福島県国見町の復興ぶりの写真 18 枚を掲載するとともに、国見町は津波の影響を受けず、死傷者はゼロであり、地震の被害は受けたが、復興途次にあると発信。
- ⑰（中国：会社員）岩手県陸前高田市、花巻温泉を訪問し見聞した状況をブログで発信し、陸前高田の被災地、花巻の祭りを写真 13 枚で紹介。
- ⑱（中国：銀行員）岩手県を訪問し、岩手のお勧めの食べ物、中尊寺、毛越寺、花巻等を訪問した見聞記を写真とともにブログに掲載。
- ⑲（中国：大学教師）岩手県盛岡市における平泉の世界遺産登録を祝う模様、大船渡市市役所付近での欧米からきたボランティアが清掃活動を行っている模様等をブログに掲載。
- ⑳（中国：会社員）岩手の青空、東京駅八重洲口、「がんばろう岩手」の標語、岩手県庁一階の千羽鶴、花巻秋祭りといった元気な岩手の写真をブログに掲載。

7. 発信形態, 件数及び発信に対する反応, コメント

(1) 発信形態および件数(平成24年1月現在, 重複を含む)。

ア	You Tube	2件
イ	ホームページ	23件
ウ	Facebook	5件
エ	Twitter	2件
オ	ブログ	12件
カ	テレビ及びラジオ出演	6件
キ	講演会・シンポジウム・帰国報告会等	10件以上
ク	新聞記事寄稿及びニュースレター寄稿	7件

(2) 発信に対する反応及びコメント(合計数)

ア	You Tube	視聴者数: 2,526人(肯定的コメント: 311, 否定的コメント: 0)
イ	ホームページ	コメント数: 6(肯定的コメント: 3, 否定的コメント: 0, その他のコメント: 3)
ウ	Facebook	「いいね!」の数: 73
エ	Twitter	ツイート数: 81, フォロワー数: 22
オ	ブログ	コメント数: 34(肯定的コメント: 13, 否定的コメント: 5, その他コメント: 16)

(3) 発信に対する反応, コメント

① (ポートランド: 英語教師, 宮城県訪問, You Tube)

ア 素晴らしいビデオだ。私は2012年のJETプログラムに応募した。採用されたら被災地を訪問する。被災地を訪問することが経済的支援になる。

イ 綺麗で感動的な映像だ。感謝する。沢山の被災地の映像を見た後に, 再建のビデオを見るのは素晴らしい。

③ (ワシントンDC: 大学院生, 宮城県訪問, ホームページ)

松島を見ることができてうれしい。

⑤ (ロサンゼルス：フリーランスライター, 仙台市訪問, ホームページ)

素晴らしい記事だ。ロスに住んでいたが、現在は仙台市に何年も住んでいる。この記事は確かな内容である。私は人を死に至らしめると信じている放射線に恐怖はないと言えば、それは科学の否定と人々は思うかもしれない。しかし、数千の科学者がこの地域で集めた証拠によれば、危険なレベルの地域はあるものの数は少なく、それほど面積も広くなく、約5マイル×10マイルほどで、他の地域では死者が出るようなことはない。

⑥ (サンフランシスコ：フリーランスライター, 福島県訪問, ブログ)

ア 素敵な記事で、私をその場に行きたくさせる。

イ 日本についての素晴らしい記事の感謝。津波発生以後実際に福島を知り訪問した人の情報を得ることはありがたい。この夏7週間家族とともに大阪に滞在したが、日本を訪問することを推薦する。

ウ 冗談言っているんだろ？。福島や日本の現状が改善していると宣伝するマシンが動いている。人々にモラルは全くないのか？。将来の安全や福祉についての関心はないのか？。金ばかりで、放射能が当初の2倍になっているにも拘わらず、福島は安全で訪問でき、福島産品を買えるという誤った考えを宣伝している。

エ 有料広告？。面白い。被災地が早期に復興することを希望する。がんばろう、東北。

オ 有料広告ではない。一人の男の経験だ。ポジティブな記事を読むのは面白い。

カ この記事の著者は、放射能汚染の危険性について無知であることを示している。この記事の目的は何か？

⑦ (シアトル：教育事業ディレクター, 岩手県訪問, ホームページ)

この悲劇的な描写はテレビ・ニュースの映像よりも感動させた。遠藤氏の話は実際に英雄的なストーリーで、発信させるべきだ。

⑫ (メルボルン：顧客マネージャー, 福島県訪問, ラジオ出演)

ラジオで聞いた。とても良かった。

彼女は地元タスマニアの「大使」だ。

⑮ (トロント：高校教師, 宮城県訪問, ホームページ)

ア 日本国民は強く、結束して、勤勉であることを震災後に示した。しかし、日本は震災前から多くの課題に直面しており、日本は米国のように

政治制度と経済が壊れ、新しい思想が欠如している。日本が文化的に20世紀にとどまったままか、21世紀に移行するかどうかが問題となっている。20世紀末には、日本はもはや必ずしもリーダーではなくなった。日本製自動車と家電メーカーに陰りが見え始めた。韓国、台湾、中国製造業者との競争に直面した。現代自動車はトヨタ自動車と同じように良質となり、またサムソンはソニーのようになった。さらに、高齢化人口は最悪となっている。日本の現在の移民政策は適当ではなく、日本はもっと移民を必要としている。

イ 日本が震災で世界の同情を得ること確実である。危機に瀕している鯨とイルカの違法な殺戮は、まったく別の話である。

ウ 私はJETとして日本に3年間滞在し、それは素晴らしいものだった。人々は優しく、特に、東京と大阪の巨大都市を外れた所の景色はとても美しかった。日本は私が今までに訪問した国の中で最も安全な国であり、カナダの都市は日本と比べると100倍も危険である。

8. 参加者の感想（我が方在外公館に伝えられた声）

③（ワシントン DC: 大学院生, 宮城県訪問）

今回のプログラムに参加したことで、現在、東日本大地震からの復興プロセスに励む日本の姿をより理解することが出来た。また、今後は今回の訪日経験を生かし、日本が震災から回復してきている現状について様々な機会においてプロモートしていきたい。

④（ボストン：ESL 教師, 福島県訪問）

実際に東北地方を訪問したことにより、被災地の復興状況を体感でき、復興状況を発信することの必要性を強く感じた。今後は、あらゆる機会を通じて、日本滞在の安全性を訴えていきたい。

⑥（サンフランシスコ：フリーランスライター, 福島県訪問）

今回の里帰りは、JET での経験と日本との繋がりが、自分の人生に多大な影響を与えていることを再認識させてくれた。改めて外務省に御礼を言いたい。

⑦（シアトル：教育事業ディレクター, 岩手県訪問）

実際に東北地方を訪問したことにより、被災地の最新の復興状況を間近で観察し、体験することができた。今後はあらゆる機会を捉えて被災地の復興状況を伝えるとともに、まだ十分に認知されているとはいえない東北地方のすばらしい伝統、文化を発信し続けていきたい。

⑧（ロサンゼルス：フリーランスライター, 仙台市訪問）

実際に東北地方を訪問したことにより、被災地の復興状況や日常生活が通常に戻っていることが実感でき、自分の渡航前の不安を払拭し、その旨を発信することが可能となった。また、自分は定期的に日本に渡航しているアジア系、日系コミュニティーや市民社会と密接にかかわっており、今次訪問を通じて、訪日予定者に実感としての日本滞在の安全性をアピールしていきたい。

⑬（オーストラリア：外交貿易省次官補, 宮城県訪問）

非常に良いプログラムに参加させていただいた。石巻市のすさまじい被害は新聞やテレビで見ていた以上のものであり、旧知の方々を含めて被害に遭われた方々の気持ちが痛いほど良くわかった。他方、仙台市は沿岸部での被害は相当なものであるが、市中心部の商業活動を始めとして見事に復興を遂げている。しかしながら、松島を訪れた際には

訪問途次のインフラの破壊と風評によって観光客の全くいない光景を目にした。こうした感想も含めて、被災地を盛り立ててその復興に貢献できるよう、当地のメディア等において積極的な発信を行っていきたいと思っている。

⑭（カナダ：ライター，福島県訪問）

再び元勤務地である福島を訪れることができるとてもうれしく思う。今回は、喜多方、鶴ヶ城、赤べこの発祥の地とされる円蔵寺といった観光名所を訪問する機会に恵まれた。観光地や、福島、郡山の市内では、以前壊れた建物もあるものの、震災前の状況とさほど異なることもなく、正常の状態に戻りつつあることが確認できた。

⑰（中国：会社員，岩手県訪問）

中国国内でテレビや新聞等を見て被災地の状況は知っているつもりだったが、実際に陸前高田市や大船渡市等の被災地の惨状を目のあたりにして、かつて訪れたことがある場所の変わりように大きなショックを受けた。復旧はこれからという状況であったが、地方のがんばりでかならず復興できると信じている。

⑱（中国：銀行員，岩手県訪問）

同じ岩手県でも、元気な場所もたくさんある。今後も様々な方法で元気な岩手を中国で情報発信していきたい。

⑲（中国：大学教師，岩手県訪問）

今回の訪日で、元同僚、関係者や友人と再会し、絆を深めることが出来た。岩手県は第二の故郷のように思う。今後も日中友好の架け橋、また、岩手県の親善大使として、元 JET としての使命を果たしていきたい。

⑳（中国：会社員，岩手県訪問）

今回、岩手県を訪問する機会を提供してくれた外務省及び観光庁に心から感謝する。

9. 受け入れ各自治体からのコメント

元 JET 参加者を受け入れた自治体からは次のような声が届けられ、被災地自治体からも一定の評価が得られた。また、2 年以上の JET 経験者であることを参加条件の一つとしたため、参加者の日本語能力は優れており、訪問先においてコミュニケーション上の問題はなく、被災地を訪問するにあたり、多忙を極めている受け入れ自治体に迷惑をかけることなく、訪問することができた。

(1) (福島県いわき市教育委員会)

本プロジェクトは良いアイデアである。

(2) (福島県二本末市学校教育課)

元 JET 参加者は非常に積極的に活動してくれた。元 JET 参加者が 10 年以上経過して当市に戻ってきてくれ、米国に帰国後、元の勤務地の現状を発信してくれたことに感謝している。当市の場合、退職した元 JET の同僚がアテンドしてくれて助かった。受け入れ環境が整えば本件プログラムを続けて欲しい。

(3) (福島県会津若松市教育委員会学校教育課)

久しぶりに元 JET 参加者に再会できて、関係者は喜んでいた。参加者は幅広い人脈を有し、行動力があり、発信能力の高い人物であった。また、人選も良く、受け入れ側に迷惑をかけることなく自分の日程をアレンジし、完璧な人材を派遣してくれたと言える。帰国後は、会津若松市は安全であると You Tube を使って発信してくれ、良かったと思っている。会津若松市は震災被害が少なかったこともあり、外国人観光客も増えてきている。

(4) (宮城県国際経済交流課)

参加者の日程が、家族の不幸により直前になって 1 週間延期となり、再度日程を調整するためやや時間を要したが、参加者には松島を訪問してもらい、同地の安全性を見て頂いた他、近隣の高等学校をも訪問して頂いた。参加者は日本語が堪能であり土地勘もあったので、受け入れ側としては通訳をつける必要もなく、スムーズにプログラムをこなすことができた。松島への外国人観光客は震災直後に比べると戻っ

てきているが、まだまだ震災前の水準には戻っていない。外国から観光客に来て欲しく、風評被害対策がまだ必要である。このプログラムを実施して頂いた外務省には感謝している。

(5) (宮城県仙台市交流政策課)

元 JET 参加者がブログや新聞等により被災地の安全性を発信して頂いたことに感謝している。発信された情報を見て、観光客が戻ってきてくれることを期待している。

(6) (宮城県塩竈市学校教育課)

元 JET 参加者が以前勤務していた学校に戻ってきてくれ、子供達は大喜びであった。参加者は塩竈市に勤務していた経験があったために土地勘があり、受け入れ側としては手がかからなかった。是非、また来て頂きたい。当地を訪問した元 JET 参加者は帰国後ブログで発信してくれ、塩竈市の知名度を上げてくれたことは有り難いと思っている。

(7) (岩手県政策地域部 N P O ・文化国際課)

このプログラムの話を聞いたときには、震災後の対応で多忙の時に、受け入れ側として色々としなければならないのかと思ったが、元 JET 参加者自らがアポイントを取り、まったく迷惑はかからなかった。また、本件プログラムで訪日した元 JET 参加者は日本語が堪能であるのみならず、親日家であり、在外公館が「岩手が大好き」という参加者を選んでいただき感謝している。岩手県を訪問した元 JET と、元同僚との交流もうまくいき、懐かしい話がはずみ、元同僚達も久しぶりに再会できて喜んでいて。元 JET 参加者が帰国後ブログ等で岩手県を発信してくれたことで、風評被害対策としても役に立ったと思っている。まだ、岩手県には観光客が震災前ほどに戻ってきていないので、出来ればこのプログラムを継続していただきたい。

(8) (岩手県二戸市教育委員会学校企画課)

本件プログラムは大変有り難いプログラムであった。元 JET 参加者と、元生徒が交流できたのみならず、米国から千羽鶴や励ましのメッセージを持ってきて頂き、外国が被災者を支援していることを知った。参加者には二戸市の文化や九戸城をホームページ等で発信してもらっ

たほか、外国からの参加者にどう接したらよいのか助言を頂いた。参加者は日本語が堪能で、自ら日程を日本語を使ってアレンジし、受け入れ側に迷惑がかからなかったことを評価している。

おわりに

- 本件プログラム参加者が帰国後それぞれ出身国において、新聞投稿、講演会の実施、テレビ・ラジオへの出演、ツイッター、ホームページ、ブログ、You Tube 等による様々な発信を行っていること、及び、被災地自治体関係者から、本件プログラム参加者によるブログや新聞等による被災地の安全性の発信とこれら発信による自治体の知名度アップ等に感謝する、以前勤務していた学校を訪問し子供達は大喜びであった、土地勘があり受け入れ団体としては手がかからなかった等一定の評価が得られたことから、草の根レベルの情報発信による風評被害対策との本件プログラムの目的は、一定程度達成できたと考える。
- プログラムの実施に際しては、被災地を訪問するにあたり多忙を極めている受け入れ自治体に迷惑をかけないことを最優先とし、参加者の選抜にあたり、2年以上日本に滞在・勤務経験のあること及び日本語能力等を参加条件とした結果、現地での活動が円滑に行われた。
- 61名の応募者はいずれも条件を満たし、かつ強い熱意を持っていたが、参加者を20名に絞らざるを得ず、多くの応募者の熱意に応えられなかったことは残念であった。他方、各在外公館の推薦を基に、出身国、訪問先、現在の職業等が偏らないよう人選した参加者は、いずれも本件プログラムの目的を良く理解し、過去のJETとしての経験に基づく地域に密着した日程を独自に工夫する等極めて積極的に活動を行い、また、各々が異なる視点から被災地及び日本の実情を発信しており、本件プログラム全体として、多様な内容を発信することができた。
- 厳しい条件を付した短期間の募集にもかかわらず、61名の応募があったことは、多数の元JET参加者が世界各地で親日家となっていることを示すものであり、過去25年間のJETプログラムの成果が実感された。また、参加者募集は、在外公館が各地のJETAA支部を通じて行ったが、各JETAA支部から積極的な協力が得られ、JETAAが我が国外交施策実施に際して、有益な協力者であることが改めて確認できた。
- 本件プログラムに参加した元JET参加者からは帰国後、日本への「里

帰り」により日本との繋がりを再認識した，今後も日本との友好のために貢献したい，今回の機会を与えられたことに感謝する等の感想，謝意が在外公館に寄せられており，プログラム参加者自身の日本に対する親近感を高める点においても一定の成果があった。

○日本国内において本件プログラムの実施について記事資料を内外プレスにリリースし，元JET参加者が訪日するたびに連絡先等を内外プレスに提供したものの，主要メディアで本件を報道したのはウォール・ストリートジャーナル(<http://blogs.wsj.com/japanrealtime/2011/09/01/JET-calls-in/favors-in-tohoku/tab/print/>)のみであり，内外メディアを通じた広報を十分には行えなかった。また，被災地の見聞に関する発信の中には，がれきの山や，機能していない町の様子等復旧が進んでいない状況を伝えているものも散見された。

○本件プログラムの成果を，被災地への外国からの訪問者の増加等で定量的に確認するのは困難な面があるが，多様な発信がなされていること，受入れ自治体及び参加者から評価されていること等から一定の成果があったと考えられる。今後は更に元JET参加者の発信への反響・効果等を検証し，同様のプログラムの実施につき検討することとした。

(了)

関連資料等

本件プログラム参加者のフェイスブック等リンク先

氏名	リンク先
① Blodget Michael	http://www.youtube.com/watch?v=nwHSR45wUaQ http://www.japanprobe.com/ http://triblocal.com/batavia/ http://ireport.cnn.com/docs/DOC-668620?ref=feeds%2Foncn http://triblocal.com/batavia/community/stories/2011/09/former-batavia-resident-visits-tohoku-japan-the-road-to-recovery/ http://realvoicesrealjapan.com/2011/09/return-to-tohoku-the-road-to-recovery/
② Gravender Kristofer	http://www.youtube.com/use/allforaizu http://www.facebook.com/groups/260749957285274/
③ Julian Robert	http://wesleysensei.wordpress.com/
④ Cameron Amy	http://returntofukushima.tumblr.com/ http://www.neJETaa.com/index.php?option=com_content&view=article&id=298:japanese-government-sponsors-local-womans-visit-to-disaster-stricken-region-in-japan&catid=1:latest-news
⑤ Shiomi Audrey	http://rafu.com/news/?s=audrey+shiomi http://rafu.com/news/2011/09/matsushima/ http://rafu.com/news/2011/09/letters-from-sendai/ http://rafu.com/news/2011/09/ganbarou-nihon/ http://rafu.com/news/2011/09/to-be-afraid-or-not-to-be-afraid/ http://rafu.com/news/2011/09/signs-signs-everywhere/ http://rafu.com/news/2011/09/letters-to-sendai/ http://rafu.com/news/2011/09/omiyage-101/ http://rafu.com/news/2011/09/tohoku-travelogue-shiomi/
⑤ Foley James	http://twitter.com/#!/jamesafoley http://www.japantoday.com/category/travel/view/traveling-to-the-edge-why-tourism-in-fukushima-makes-more-sense-than-ever http://www.independenttraveler.com/blog/?p=3218

⑦ Erickson Benjamin	http://www.tohokuben.com http://twitter.com/#nambuben http://www.facebook.com/tohokuben http://www.JETausa.com/tohoku-recovery/JET-alums-return-to-tohoku/
⑧ Mockridge Alan	http://alanmockridge.com/ http://facebook.com/#!/pages/Back-to-Iwate/215737075151151
⑨ Pang Jacquelyn	http://www.JETausa.com/tohoku-recovery/JET-alums-return-to-tohoku/jacquelyn-pang/
⑩ Cooney William	http://www.facebook.com/billcooney
⑪ Van Etten Sharon	http://revisitingiwate.blogspot.com/
⑫ Blesler Heidi	http://nichigopress.jp/nichigo_news/shinsai/27622/ http://melbourne.JETalumni.org/?portfolio=hobart-JET-revisits-japan
⑬ Wood Leynatte	http://www.japantimes.co.jp/text/rc20111023a7.html
⑭ Stering Brent	http://foryourbrentertainment.wordpress.com/
⑮ Gardeckey Tanya	http://www.cbc.ca/news/canada/story/2011/09/09/japan-teachers-JET-return-quake.html http://blogs.wsj.com/japanrealtime/2011/09/01/JET-calls-in-favors-in-tohoku/tab/print/ http://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/english/news/infocul-news/gardecky/gardecky.html http://www.travelblog.org/Asia/Japan/Miyagi/Shiogama/blog-636942.html
⑯ Hardy James	http://www.facebook.com/media/set/?set=a.10150744528345198.719315.850585197
⑰ 吳光玉	http://blog.sina.com.cn/s/blog_542ff8b30100y92a.html http://blog.sina.com.cn/s/blog_542ff8b30100y9uq.html
⑱ 宋彦婷	http://t.qq.com/panda119syt
⑲ 李衛群	http://blog.sina.com.cn/u/1219739884
⑳ 卜曉燕	http://weibo.com/2403696210